

広島の水と緑を守る会の一年間を振り返って

平成 32 年の供用開始を目指して広島市が進めている一般廃棄物最終処分場（恵下埋立地整備事業）の浸出水放流管の方式とルート変更を求めるために、昨年 4 月に「広島の水と緑を守る会」を立ち上げ、立木トラストに取り組んだ一年間の運動を振り返ります。

◆立木トラストの取り組みの現状

現在、立木オーナー数は約 200 名、登録立木本数も 300 本以上となり、広島県内はもとより、北は青森から南は沖縄まで、多くの方にご協力いただき大きな力となっています。

立木トラストに取り組んでから 1 年経った現状は、浸出水放流管ルートのトンネル工事はストップした状態ですが、埋立地本体も浸出水放流管の方式やルートの見直しは一切行おうとせず、埋立地の本体工事は始まり、工事用車両はひっきりなしに戸山地区を走っています。

また、浸出水放流管の埋設工事を計画したルートのトンネルの目途もたっていないのに約 6,657 万円かけて埋立地から最も遠い地域から開始するという、地元住民の不安の声を無視して強行しています。

◆広島市が立木トラスト名簿提供を要求！

昨年 9 月 26 日の夜 7 時半頃、広島市安佐南区役所地域整備課の二人の職員が、広島の水と緑を守る会の代表者の自宅に突然やってきました。何故、このタイミングで(?) と思いましたが、それは 9 月 29 日に広島市議会の経済観光環境委員会で請願するために提出した請願書の住所を見て来た模様です。

そして、「立木トラストの名簿を提供して欲しい」と要求しました。理由を聞くと、「広島湯来線拡張工事に必要なトンネル坑口付近を調査するために、地権者と同様に立木トラストのみなさんにも了解を得るため、地元から要望があった道路整備を進めるために協力して欲しい」と言いました。

私たちが立木トラストに取り組んでいるのは、恵下埋立地整備事業の浸出水放流管の方式とルートの設計が非常に危険であり、戸山地区にのみ負担を強いているので、その変更を求めるためであり、道路整備そのものに反対している訳ではありません。

恵下埋立地建設事務所は、地域整備課が作った道路の下に浸出水放流管を埋めることで地元の了解を得る必要がないと考えて、そ知らぬ顔を決め込んでいます。一方、地域整備課は恵下埋立地の浸出水の問題は環境局の仕事であり、地域整備課が係わるのではなく、どうしようもできないと言って逃げています。つまり、広島市は縦割り行政を巧みに利用して、あらゆる手段を駆使して攻撃を仕掛けてきています。(11 月 9 日にも電話を掛けてきて、同じ内容でした)

こうした揺さぶりに負けることなく、地権者とともに、粘り強く闘っていきたいと思います。

【お詫び】通信の資料が小さくて見えにくく申し訳ありません。

広島の水と緑を守る会ホームページ (<https://hiroshima-wgprotect.jimdo.com/>) からダウンロードしてください



(県道沿いに設置した立木トラス看板)



(オーナー札を取り付けた立木)

6 団体で広島市議会へ請願

«2016 年 9 月 29 日»

◆恵下埋立地の浸出水放流管方式とルート見直しを求める請願書を提出！

広島市が進めている一般廃棄物最終処分場（恵下埋立地整備事業）建設計画には、埋立地選定の経緯や設計上の問題、施工上の手抜き工事、土地取得手続き上の問題など、広島市の担当者の無知・理解不足など、目に余ることがたくさんあります。

こうした問題点について、恵下埋立地と水内川考える会のみなさんや、送水管に関して詳しい方などと勉強会を開き、意見交換をしながら、計画の中止や見直しを求めようと、新設トンネル坑口の地主の方や地元の若者グループなど、6 つの市民団体がまとまって広島市議会の経済観光環境委員会へ請願しました。

広島の水と緑を守る会としては、「恵下埋立地整備事業の浸出水放流管ルートの見直しについて」という請願書を提出し 5 分間の趣旨説明を行いました。

これに対して、広島市の答弁は、「現在の玖谷埋立地は平成 32 年で埋め立てを終えるため、安定的なゴミ処理を行うには恵下埋立地を完成させる必要がある。埋立地は国の基準を上回る設計で問題はない」と繰り返すのみで、私たちの請願に耳を貸しませんでした。経済観光環境委員会の議員の方に、問題点があることを知ってもらい、請願は継続審議となりました。



(請願趣旨説明をする水緑会代表)

【請願した 6 団体】

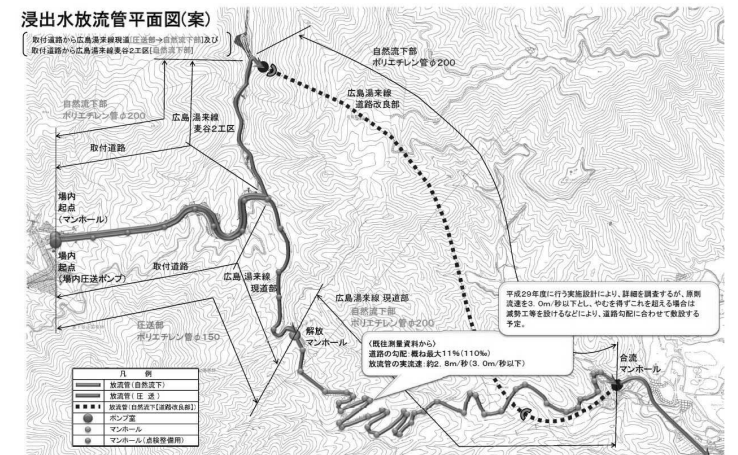
- ・恵下埋立地と水内川を考える会
- ・阿戸の環境を守る山林地主の会
- ・阿戸の環境を憂う会
- ・戸山の自然を守り隊
- ・広島の水と緑を守る会
- ・子どもたちをダイオキシンから守る会

現道ルートも検討するポアーズの広島市

広島市は、広島湯来線の改良工事がトンネル坑口の地権者と立木トラスト運動でストップしているために、現道へ浸出水放流管を埋設することも検討しており、昨年 12 月になって、地元の戸山学区町内会連合会へ右の資料を出してきました。

現道では、高低差もさらに大きくなり、圧送のためのポンプも増設されています。また、道幅も狭く曲がりくねっているために、マンホールが 39 個も設置されます。さらに、現道には天皇原川が横断している箇所があり、暗渠部には 2m 程のポリエチレン管が設置してあるだけで、豪雨などで暗渠が詰まれば道路が損壊し、放流管が破断する危険があります。しかし、広島市はその危険性や住民の不安の声を無視して、何が何でも当初計画通りに事を進めようとしています。そして、今年になって取り付け道路から水内側のトンネル坑口までの改良工事に着工しました。住民のための道路改良ではなく、ゴミ運搬のための改良工事であることが明らかです。

図解説：点線が新設トンネル予定ルート
左側の太線が新設された埋立地取付道路
上から右下への細い曲がりくねった線が現道の広島湯来線



恵下埋立地で高濃度ダイオキシン類見つかる！

◆新聞報道で初めて知った広島市民！

今年1月28日の中国新聞に「タイヤ燃え殻 5600 トン確認 広島市処分場予定地 処理に本年度2億円」という見出しを見て、恵下埋立地に高濃度のダイオキシン類が見つかったことを初めて知りました。

それから、わずか10日後の2月7日には「広島市処理に6億円 処分場予定地のタイヤ燃え殻」という記事が出て、県の出島処分場への埋め立て基準を超えるダイオキシン類を含んでいるタイヤの燃え殻4000トンが無害化処理するのに6億円かかるとありました。700万円で購入した土地に対して100倍近い税金を使うことは異常です！

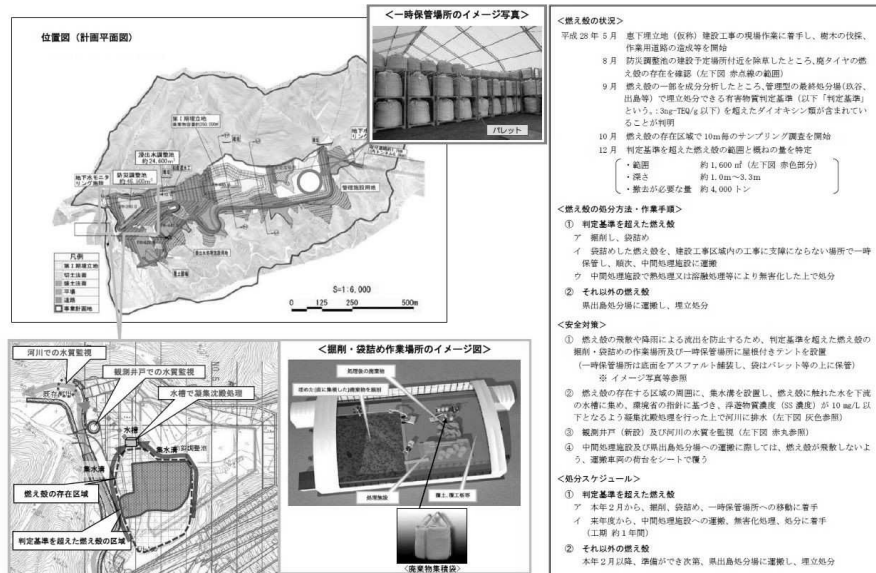
◆隠し続けた広島市の言い訳

広島市は、昨年8月時点で廃タイヤの燃え殻を発見しており、9月には環境基準の29倍もの29000pg-TEQ/g(※1)の高濃度ダイオキシンが検出されたことをずっと隠してきました。

9月と言えば、6団体が請願した時であり、10月末には共産党の議員団が現地を視察していますが、この時もまったく触れていません。

広島市は公表しなかった理由について「範囲や量を把握し、処理方法を示さないまま公表しては不安を煽るばかりと判断した」と言い、新聞報道される直前の1月19日になって地元の町内会連合会役員にのみに説明しており、順次地域住民や市民へ説明しようとしたが、新聞報道が先になってしまったと言いつつ、2月22日にこの問題で7団体が請願した時点では、広島市がホームページで公表していた資料は下の資料一枚のみでした。つまり、すべて後からつじつまを合わせているだけです。

【恵下埋立地（仮称）建設現場におけるダイオキシン類を含む燃え殻の処理について】



資料は広島市ホームページ (<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1457917548470/index.html>) から

★広島市が公表した資料

【1月28日中国新聞】



【2月7日中国新聞】



○7団体が広島市議会へ請願 <<2017年2月22日>>

昨年、9月29日に行った請願は閉会中継議審議となっていますが、これに対しては何の進展もないまま現在に至っている中で、埋立地内で環境基準の29倍ものダイオキシンが発見されたのに、広島市は情報を隠蔽しながら独自に秘密裏に処理方法を検討し、6億4千万円の処理費用を、来年度予算から支出するために市議会の開会直前を見計らって公表したとしか思えません。このように、恵下埋立地で発見された高濃度ダイオキシン類に関する広島市の対応があまりにもずさんであることに抗議の請願を7団体で行いました。7団体の趣旨説明後の市側の答弁は「範囲や量を把握して処理方法も検討してからでないと、住民の不安を煽るだけと判断して時間がかかった」と、まことしやかな言い訳に終始しました。私たちはこれを許さず、さらに追求していくことを決意しました。



(趣旨説明する考える会事務局長)

○高濃度ダイオキシン現地視察 <<2017年2月24日>>



請願を行った翌々日には、請願の紹介議員の馬庭恭子議員と長年、廃棄物研究をしている貴田晶子先生とともに、学習会ののちマスコミを含め、たくさんの方が現地視察を行いました。現地では、想像以上に広い範囲がブルーシートで被われ、周りには廃タイヤがたくさん見えました。ダイオキシンは水に溶けず、その毒性は消えることはなく、実際に汚染している廃タイヤを処理する人は、防護服に防塵・防毒マスクを着用する必要があります。しかし、広島市は「環境工学の学識経験者や専門家の意見を聞き、調査・処理方法を検討し、廃タイヤを適正に処理すれば問題はない」と繰り返すばかりですが、この現状を実際に目にすれば、不安は益々大きくなるばかりです。

○広島市長へ要望書提出 <<2017年3月17日>>

請願、現地視察以降、市議会での一般質問や県議会でも出島埋立地の埋立てが約束の10年では到底埋まらない現状での質問なども聞き、広島市長に対して恵下埋立地の高濃度ダイオキシン発見の情報公開のあり方と、調査や処理方法について市民も参加できる第三者委員会の設置を求める要望書を6団体が、それぞれの立場で提出しました。当日対応したのは、環境局長、施設部長、環境保全課長、環境政策課長の4人。4月17日までに文書で回答することを約束させました。この時の模様がTSSとRCCでテレビ報道され、翌日の中国新聞でも記事が掲載されました。



(広島市に要望書を提出6団体の代表)

＜4月18日郵送で回答が届く＞ 回答の内容は、①情報は公開している。②地元との協議を行っていくことで改めて第三者委員会を設置しない。とまったくのゼロ回答でした！

□編集後記□

まずこの一年、ニュースの発行ができなかったことをお詫びします。しかし、この一年は本当にあっという間に過ぎ、状況の変化にどう対応してよいか戸惑いながらも、多くの方に支えられ活動してきました。行政の強行姿勢を止める手段はなかなか見つかりません。そんな中で、浸出水放流管ルートが地元が反対から一転して「環境汚染など万一のことがあったとしても、生活に影響が出ることはなく安全はほぼ確認できた」として対策事業を求めて4月21日に合意書を締結してしまいました。今後、トンネル坑口地権者への圧力が強まるのが気がかりですが、精一杯踏ん張っていく覚悟ですので、ご支援をお願いします。

【問合せ先 立木トラスト事務局：尾上耕造 電話：090-1687-4680 メール：crystal2konan@gmail.com